

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600184		
法人名	医療法人 竜門堂		
事業所名	竜門堂 グループホーム ことぶき荘		
所在地	佐賀県武雄市山内町大字大野6360番地6		
自己評価作成日	平成23年2月20日	評価結果市町村受理日	平成23年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成23年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

結婚式場だった所をリフォームしてあり、階段や段差を利用され、家事などでの生活リハビリが出来ている。広々としたディルームを中心に落ち着いた家庭的な雰囲気の中で、自分らしく穏やかに、過ごして頂けるよう黒子のケアに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

結婚式場をリフォームされており、利用者の方からも「結婚式で来たことがある」との声が聞かれるなど施設の建物自体が地域に馴染みのあるものとなっている。サービスについては、リビングの机の配置を様々検討され、利用者全員の顔が見えるよう工夫されている。職員参加のミーティングや運営推進会議で活発な意見交換がなされており、よりよいホーム作りに結びついている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲げ、毎朝の申し送り時に職員一同唱和している。また荘内に掲示して、理念の実践に取り組んでいる。	法人理念とそれをもととしたグループホームの理念(モットー)を施設内の数箇所に掲示し周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、天候のいい日の散歩などで挨拶を交わしたりしている。また、ことぶき荘だよりを配布して、地域との交流を図っている。	ことぶき荘だよりを利用者と一緒に配布したり、近隣で開催される行事に出かけたりしている。この他母体病院に通院される方が野菜を持ってきてくれるなど地域との付き合いは良好になされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方のご家族から悩みや対応に関して尋ねられたり、相談された時はアドバイスをしている。また、地域の高齢者の食事会など参加してお手伝いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域・ご家族から参加をして頂き、荘内の状況報告を行ない、意見や話し合いをしてサービスの質の向上に繋げている。	運営推進会議の参加者からは意見がよく出されている。地域の方や家族など参加しやすいよう、週末開催などの配慮をされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者の方とは連絡や相談などの電話をかけたりにしている。担当者の訪問も定期的であり、協力関係が築けている。	市や支所両方の担当者と良好な協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体が身体拘束をしない取り組みを行っている。職員全員が周知して、玄関の施錠などしないで、常に見守りを行なうケアに取り組んでいる。	点滴中は傍で見守り、徘徊中は付き添うなど身体拘束をしないケアの実践ができている。勉強会の開催はできていないが施設で関連書籍を用意し、個人で勉強できる環境を提供している。また、OJT、ミーティングなど機会あるごとに意識付けが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については研修や情報から学ぶ機会があり、暴力だけでなく、言葉の暴力も虐待であることを認識しているが、日頃の声掛けや口調には十分注意をするように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度については研修で学んではいる。現在までに必要な方と関わったことはないが、適切に対応できるように今後も学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては契約書を元に利用者、ご家族に管理者が説明をして、理解・納得して頂き署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族に要望や意見がないかお尋ねしている。玄関に意見箱を設置して利用して頂くようにしている。入居者様が外部へ出される機会としては、介護相談委員の来荘時に話されている。	家族の面会時を中心に病状等の報告をこまめに行ったり、悩みを聞いたり日頃の様子を伝えながら話し合いの場を設けている。その中で、要望等を聞き取るように工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング時に職員に意見・提案を聞く機会を設けている。法人の運営者や事務長に意見・相談して、運営に反映させている。	朝礼、委員会活動、ミーティング、カンファレンス時に、職員の意見や提案がなされている。管理者、職員とも新しい意見を積極的に取り入れる場として理解している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	タイムカードの確認、職員の研修レポートに目をとおされ、勤務態度など見られていると思う。それによって異動、昇給、賞与に繋がてあると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で教育委員会があり、勉強会や研修の年間計画がたてられている。研修費と交通費の支給制度もあり法人外の研修も受けやすい環境にある。個人の質の向上に努力するよう代表者から指導を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に入っている。研修や勉強会の機会があり、質の向上に努めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前にご本人とご家族に見学して頂いている。入居時は皆様帰宅願望があれ、その都度対応し、不安や要望などをよくお聴きして、安心されるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に見学して頂き、ご家族と話す機会を設けている。家庭での介護の大変さや、困られている事、要望等をお聴きしている。入居されてからは状況を報告し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった時はご本人、ご家族または、ケアマネジャーと共に今の自宅での生活状況やご本人の認知症の症状等をお聴きし、ご利用が望ましいか、他のサービスでも在宅生活が可能か見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事をして頂き、出来られない部分を手伝うような介護を心掛けている。出来る喜びを共有し、人生経験豊富な入居者様から、料理、生活の知恵、諺など教えて頂き、より良い関係づくりを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に荘での生活や状況をお話している。ご家族との関わりを多く持つて頂くように、自由に面会して頂き、時には外出、外泊などの協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がいつでも気軽るに面会できるようにしている。外出も墓参り、結婚式、供養などご家族の協力を得て関係が途切れないよう努めている。	友人・知人の面会時には居室でも面会できるよう対応している。外出希望時には、家族と連携して要望に沿うようにし、馴染みの場とのつながりも大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のよい方、気が合う方、気が合わない方などの入居者様の関係を把握し、その時の状況により関わりが上手いくよう配慮し、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからもご家族が訪問されたり、よい関係が築けている。法人や近くの病院に入院された時には面会し、また、回復された時の事をご家族と相談し合い、継続的な関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の会話や、職員と交わす会話の中で、日頃思われていることや希望などわかり尊重している。意思の伝達が上手く出来られない方からも会話の端々からも思いを汲み取るように努めている。	日頃交わす会話の中で、本人の意向の把握に努め、利用者本位に検討がなされている。利用者の発言、様子などはカンファレンスでも議題に掲げ、ケアの統一の検討も行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される時はご本人やご家族、または他のサービスを利用されていた場合は、そこからの情報などから生活歴、暮らし方の把握に努めている。入居後は日常の会話から把握できることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の心身の状態を把握して、有する力量に応じて生活して頂き、出来られない部分を手助けするように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する前にご本人、ご家族、主治医などの意見を聞き、希望・意見を取り入れた介護計画を作成している。	介護支援専門員と担当者で原案を作成し、本人、家族の意見と合わせ計画立案がなされている。モニタリングは月1回行われており希望や意見を取り入れた見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子、気づき、ケア実施を個人の介護日誌にケアプランに沿った記録や状況を記入している。全職員が申し送りノート等活用しながら情報を共有し、実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族の要望を最優先し、その時の状況に応じて、柔軟な対応に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事などに出かけて楽しんで頂いている。民生委員やボランティアの方がおみえになり、荘の行事に参加頂き、防火訓練には入居者様も参加されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は法人の医者であり、定期的な受診を受けられ、異常時はすぐに連絡して対応されている。また、ご家族の希望で専門科に受診されるよう支援している。	母体病院がかかりつけ医となっているが、専門科については利用者の希望に合わせ受診の支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は入居者様の日常の身体状況を把握して気づきや情報を訪問看護師に伝えたり、相談して、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合は職員がお見舞いに行き、病院関係者と情報交換を行っている。退院後の相談などを受けて病院関係者との連携が図られている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、入所時にご家族に説明しているが、状態が悪化された時は主治医とご家族との話し合いをして頂いている。	重度化や終末期に向けた方針については、入所時に説明されている。施設の方針としては、基本的に母体病院へ搬送することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の怪我や急変時の対応はマニュアル化しており、看護師による救急時の勉強会を開いて指導を受けている。急変時は医師に連絡し指示を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼と夜間想定訓練を行ない、避難誘導方法を把握し、出来るようにしている。地域の消防団の方にも協力をお願いしている。	火災時の避難訓練は年2回実施している。又、町が実施主体となる火災発生時の避難訓練にも参加している。地震、水害についての訓練は未実施である。	今後は、火災以外の災害に対する訓練や対策の検討に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様は人生の先輩であり尊敬した言葉かけをし、個人のプライバシーを損ねないようにさりげなく声かけや対応するように努めている。	職員間でプライバシー保護に関する声かけをするなど、意識付けが図られている。男性職員の介助を嫌がる利用者には、女性職員が対応するなどの配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけご本人の思いや気持ちを受け入れた介護に努めている。また上手く表現できない方の気持ちも汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側にある程度の決まり事はあるが、一人ひとりの意思を尊重し、その日の状況に合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好まれる衣装を選んで頂き、衣類の調整がうまく出来られていない時は支援している。整髪希望される時は訪問理容・美容を利用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みや食べたい物をお聴きして、旬の食材を使い盛り付けなど工夫して提供している。食事の下ごしらえ、盛り付け、お盆拭きなどお手伝いをして頂き、職員も同じテーブルと一緒に食事を頂いている。	利用者の希望を聞き、その日の献立を作成している。利用者の方にテーブルの準備などをお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え、個人の摂食形態、摂取量に応じて提供し、水分も食事やおやつ以外の時間以外も希望時に適宜提供している。おやつも手づくりや昔懐かしいおやつを提供して喜ばれている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行ない、ご自分で出来る方は磨き残しがないか時々確認し仕上げ磨きをしている。義歯の方は職員が洗浄し、その後うがいをされている。夜間は義歯はケースに入れお預かりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導を行ない、個人に応じた尿とりパット・紙パンツを使用して、できる限り失敗がないように、また、自立にむけた支援をしている。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握を行い、利用者のタイミングに合わせたトイレ誘導が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響は理解できている。個人の排便の状況を把握し、食事・水分量・適宜の運動を取り入れて、排便のコントロールが上手くいくよう取り組んでいる。便秘の方は主治医に報告して指示を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくり入りたい方、早めに入りたい方、その日の体調に合わせて入浴の支援をしている。	基本的には1日おきの入浴だが、利用者の意向により変更も適宜行われている。又、入る順番も利用者の意思を尊重した配慮がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ、昼間活動して夜間休んで頂くようにしているが、一人ひとりの体調に合わせて、昼寝をされたり、夜間眠れない時は、お話しして、安心されてから、休まれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を介護日誌に綴じ、職員全員が用法、用量が分かるようにしている。与薬は職員が行い、誤薬・与薬忘れがないか二人の職員で確認している。臨時薬も申し送りして状態の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日常の会話から、得意な事、趣味をお聴きして、料理下ごしらえ、盛りつけ、配膳、洗濯物たたみをして頂いている。レクリエーションも行い楽しませている。気分転換に気候や行事に合わせて外出、散歩など支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候のいい日や希望される時は荘外散歩・大野病院など出かけている。花見・紅葉・流鏝馬など地域の行事にも参加したり、結婚式や供養・お墓参りなどご家族や地域の人々と協力しながら支援をしている。	散歩は日常的に行われており、町の行事がある際は、その場所まで出かけていくなどの外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお小遣いを持たれていたが、管理が出来なくなられた為、ご本人に承諾のうえ施設の預かりとしている。希望がある時は預かり金でお買い物して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話の希望をなされる時はご家族に掛けたりしている。家族様や知人からの電話も取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ディルームでテレビを視たり、食事の支度をしている台所より野菜を切る音や美味しいにおいを感じて頂いている。玄関先には四季折々の花をプランターに植えたり、窓から朝陽をあびたり、雨や雪など季節を感じて頂けるよう工夫をしている。	一般家庭と同様な家具を使用している。リビングには、季節を感じる事ができるような装飾や利用者の作品が掲示されている。又、リビングにはイオン発生装置が取り付けられており、癒しの空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ディルームではソファーや家具調椅子に気の合う方同士で思い思い好みの場所に座わられている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご自分で使われていた馴染みのタンスや鏡台等使用されている。	入居者の家での生活に近づけるように、居室には、馴染みの物を持ち込んでいただくよう勧めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室など表示はしないで声かけで場所を覚えて頂くようにしている。荘内は手すりを付けて安全にできるだけ自立した生活が送れるよう環境づくりをしている。		